

令和5年度(2023 年度)

全国学力・学習状況調査 豊中市の結果概要

豊中市キャラクター マチカネくん



今年4月に実施された全国学力・学習状況調査について、豊中市の児童生徒のみなさんの調査結果の概要がまとまりましたので、お知らせいたします。

令和5年(2023年)9月 豊中市教育委員会

●調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

●調査内容

①教科に関する調査※

小学校:国語、算数 中学校:国語、数学、英語

②質問紙調査(児童・生徒に対する調査、学校に対する調査)

●実施日 令和5年(2023年)4月18日(火)

英語「話すこと」については、実施日には文部科学省が指定する一部の中学校(以下「当日実施校」)で実施し、その他の中学校(以下「期間内実施校」)については、4月19日から5月26日までの間に実施しました。

●対象学年

小学校 第6学年、
義務教育学校前期課程 第6学年の全児童
(本市の参加児童数 3,617人)

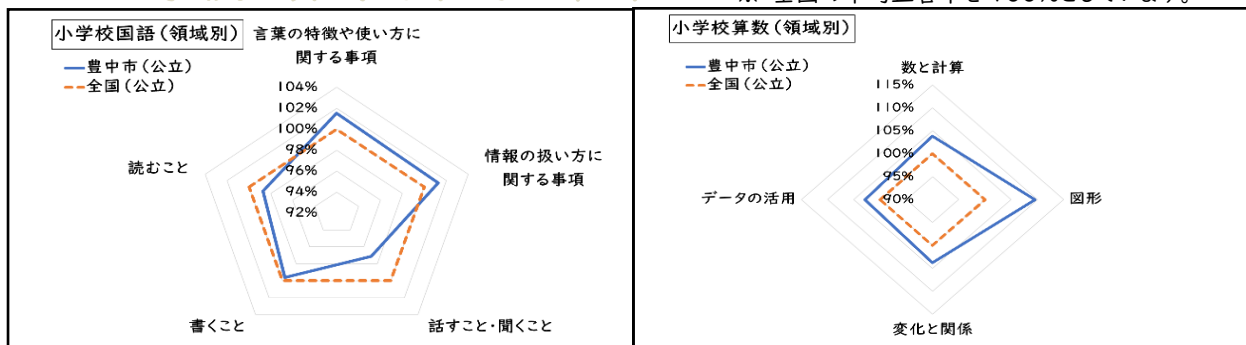
中学校 第3学年、
義務教育学校後期課程 第9学年の全生徒
(本市の参加生徒数 3,069人)

※この調査結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。また、これまで経年変化をグラフに表すことができた質問項目であっても、今年度は質問項目から削除されるなど、グラフに表すことができない場合があります。

小学校 領域別平均正答率

※ 軸の目盛はグラフにより異なります。

※ 全国の平均正答率を100%としています。



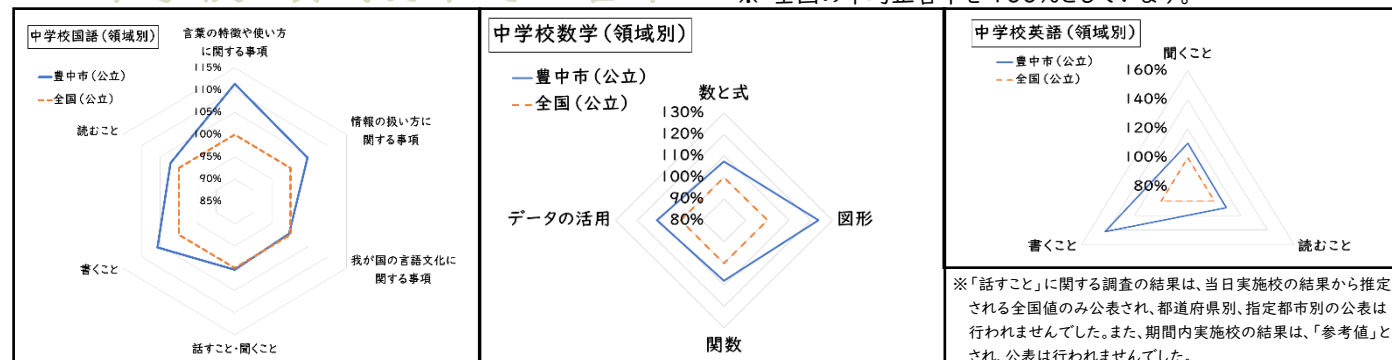
国語においては、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」の領域の平均正答率(以下、正答率と表記)が高くなっています。一方、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域の正答率が低くなっています。算数においては、すべての領域において全国の正答率を上回り、特に「図形」の領域の正答率が高くなっています。



中学校 領域別平均正答率

※ 軸の目盛はグラフにより異なります。

※ 全国の平均正答率を100%としています。



※「話すこと」に関する調査の結果は、当日実施校の結果から推定される全国値のみ公表され、都道府県別、指定都市別の公表は行われませんでした。また、期間内実施校の結果は、「参考値」とされ、公表は行われませんでした。

国語においては、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」や「書くこと」の領域の正答率が高くなっています。数学においては、すべての領域において全国の正答率を上回り、特に「図形」の領域の正答率が高くなっています。英語においては、すべての領域において全国の正答率を上回り、特に「書くこと」の領域の正答率が高くなっています。



— 学力・学習状況調査の結果概要 —

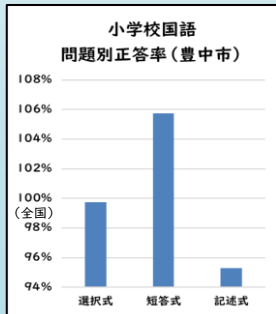
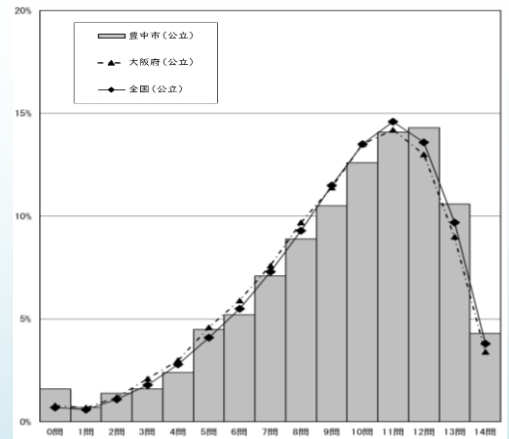
小学校 国語

質問事項	豊中市	大阪府	全国
国語の勉強は好きですか	57.0	59.4	61.5
国語の勉強は大切だと思いますか	91.2	92.8	94.2
国語の授業の内容はよく分かりますか	85.0	86.1	85.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.2	91.3	92.8
国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか	79.3	82.6	83.9
国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか	70.4	75.1	76.8
国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていますか	67.2	70.2	71.1
国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか	79.7	80.4	82.3

*児童質問紙「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計(%)

小学校国語 正答数分布

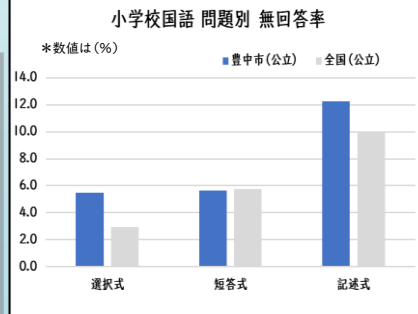
正答数の分布は、総問題数14問中、12問を頂点とする右よりの山型を描いています。



*全国の平均正答率を100%とした場合の数値

小学校国語 問題別正答率と無回答率

全国平均と比べて「短答式」の正答率が高いものの、「選択式」「記述式」の正答率が低くなっています。無回答率は「短答式」については全国とほぼ同じであるものの、「選択式」「記述式」については全国平均より高くなっています。



◇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことは、よくできています。

『問題番号1三(1)ウ:【川村さんの文章】の下線部を、漢字を使って書き直す(きかん)』

◆目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題があります。

『問題番号3二:寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く』

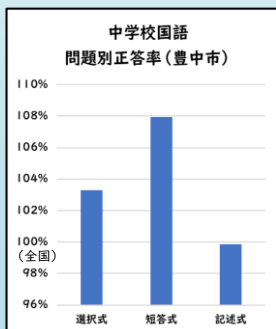
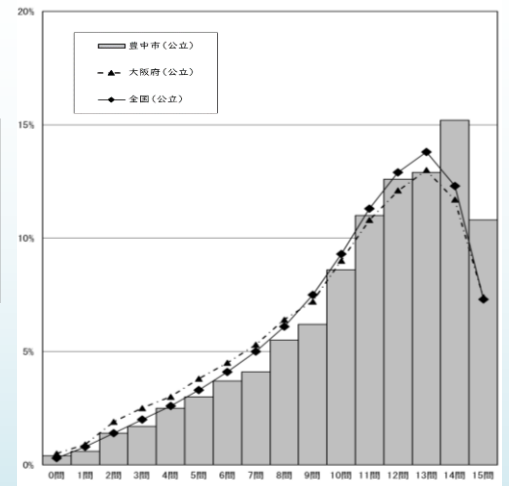
中学校 国語

質問事項	豊中市	大阪府	全国
国語の勉強は好きですか	58.1	59.4	61.4
国語の勉強は大切だと思いますか	90.2	91.2	92.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	78.8	80.3	80.0
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	84.5	86.6	88.7
行書の基礎的な書き方(「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など)を理解して書いていますか	63.0	65.2	67.2
国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立つ効果的な話し方を工夫していますか	61.8	63.8	65.9
国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか	56.4	60.8	63.9
国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか	76.6	75.6	77.2

*生徒質問紙「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計(%)

中学校国語 正答数分布

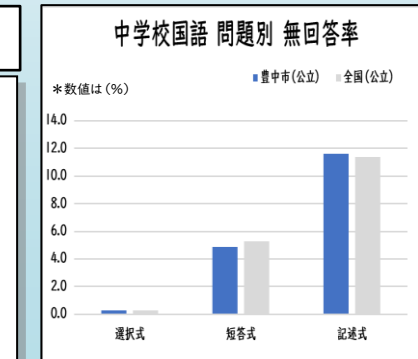
正答数の分布は、総問題数15問中、14問を頂点とする右よりの山型を描いています。



*全国の平均正答率を100%とした場合の数値

中学校国語 問題別正答率と無回答率

全国平均と比べて「選択式」「短答式」の正答率が高いものの、「記述式」の正答率が低くなっています。無回答率は「選択式」については全国とほぼ同じで、「短答式」については全国平均より低くなっているものの、「記述式」については全国平均より高くなっています。



◇目的や場面に応じて質問する内容を検討することは、たいへんよくできています。

『問題番号1一:インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する』

◆文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があります。

『問題番号2四:自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く』

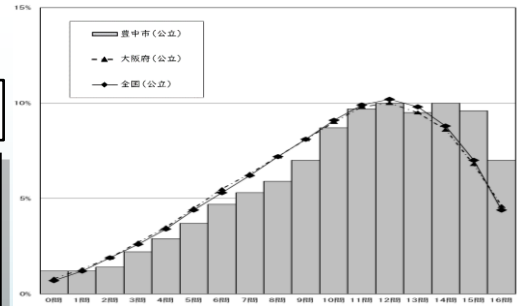
小学校 算数

質問事項	豊中市	大阪府	全国
算数の勉強は好きですか	62.0	60.3	61.4
算数の勉強は大切だと思いますか	92.5	93.0	94.2
算数の授業の内容はよく分かりますか	81.1	82.4	81.2
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.5	92.0	93.3

※児童質問紙「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計(%)

小学校算数 正答数分布

正答数の分布は、総問題数16問中、12問を頂点とする右よりの山型を描いています。

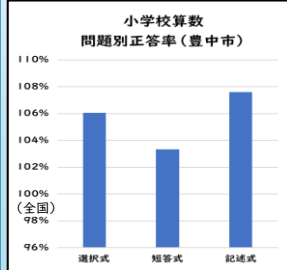


◇一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることは、よくできています。

『問題番号 1(4)：全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する』

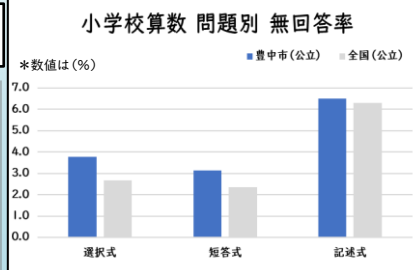
◆示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見だした違いを言葉と数を用いて記述することの平均正答率は低い結果が出ています。

『問題番号：4(3)：二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く』



小学校算数 問題別正答率と無回答率

全国平均と比べてすべての解答形式で正答率が高く、「記述式」は特に高いものとなっています。無回答率は、全国平均と比べてすべての解答形式で高くなっています。



※全国の平均正答率を100%とした場合の数値

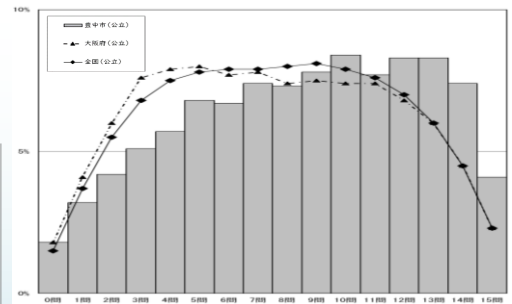
中学校 数学

質問事項	豊中市	大阪府	全国
数学の勉強は好きですか	56.4	56.3	56.7
数学の勉強は大切だと思いますか	82.0	83.2	85.0
数学の授業の内容はよく分かりますか	74.6	75.4	73.3
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	71.0	74.2	75.8

※生徒質問紙「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計(%)

中学校数学 正答数分布

正答数の分布は、総問題数15問中、10問を頂点とする右よりの山型を描いています。

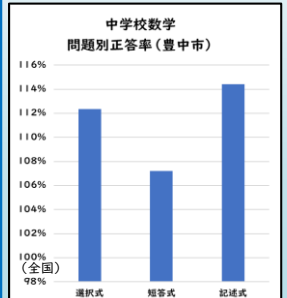


◇数と整式の乗法の計算をすることは、よくできています。

『問題番号2： $12(x/4 + y/6)$ を計算する』

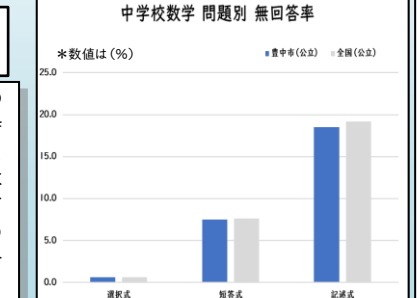
◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することの平均正答率は低い結果が出ています。

『問題番号 8(3)：グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する』



中学校数学 問題別正答率と無回答率

全国平均と比べてすべての解答形式で正答率が高く、特に「記述式」については高くなっています。無回答率は「選択式」「短答式」については全国とほぼ同じであるものの、「記述式」については全国平均より低くなっています。



※全国の平均正答率を100%とした場合の数値

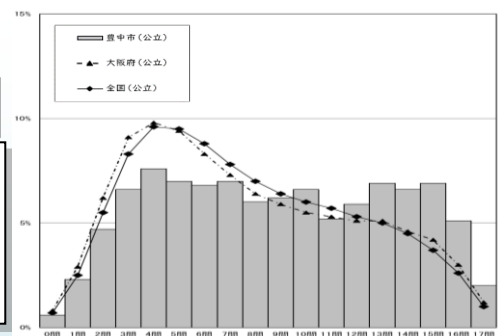
中学校 英語

質問事項	豊中市	大阪府	全国
英語の勉強は好きですか	56.0	51.3	51.9
英語の勉強は大切だと思いますか	88.9	87.8	88.0
英語の授業の内容はよく分かりますか	70.1	66.6	63.9
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.7	87.5	87.5
将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	41.1	40.2	36.7
これまで、学校の授業やその他の学習以外で、日常的に英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）	38.4	33.2	30.0
家庭学習の課題（宿題）として、週1回以上PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声の聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか	29.7	23.2	22.9

※生徒質問紙「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計(%)

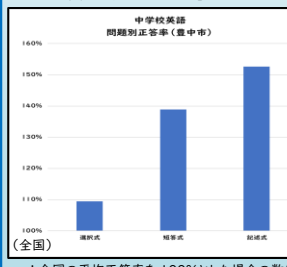
中学校英語 正答数分布

正答数の分布は、総問題数17問中、4問を頂点とするやや左よりの山型を描いています。



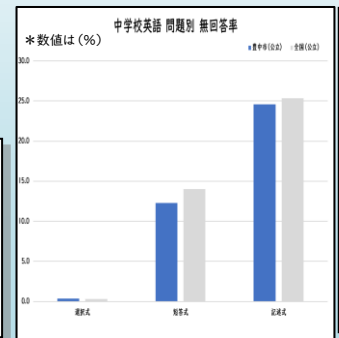
◇情報を正確に聞き取ることは、よくできています。『問題番号 1(1)：ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する』

◆日常会話について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことの平均正答率は低い結果が出ています。『問題番号 10：学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く』



中学校英語 問題別正答率と無回答率

全国平均と比べてすべての解答形式で正答率が高く、特に「記述式」については高くなっています。無回答率は「選択式」については全国とほぼ同じであるものの、「短答式」「記述式」については全国平均より低くなっています。



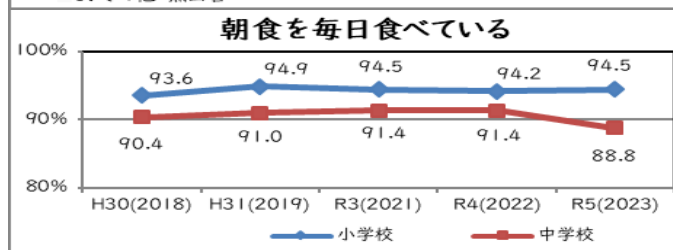
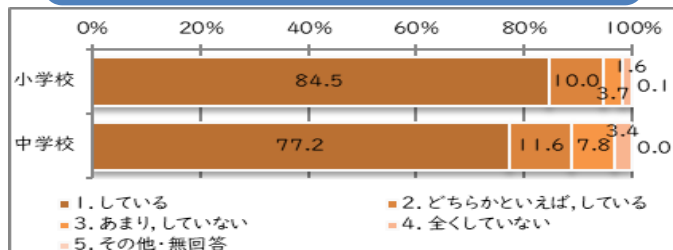
※全国の平均正答率を100%とした場合の数値

— 児童生徒質問紙調査から(小中比較・経年変化) —

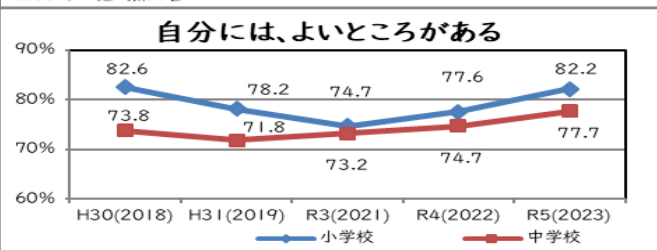
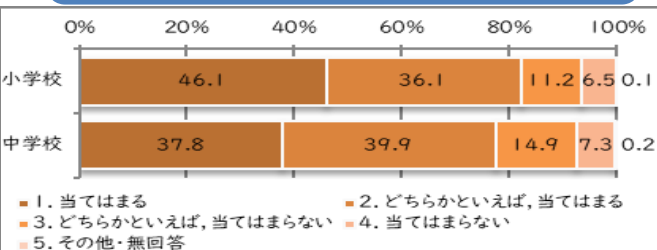
※児童生徒質問紙調査において、その回答の結果と学力調査の結果に関係性が見られた項目を取り上げ、豊中市の経年変化(当てはまる・どちらかといえば当てはまるの合計)をグラフでまとめました。



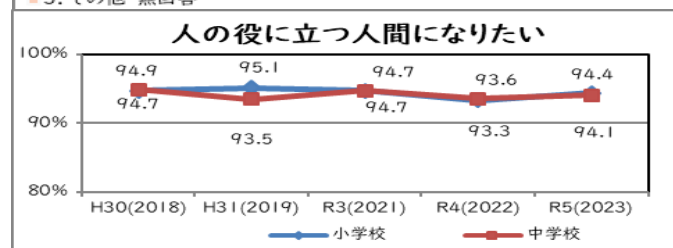
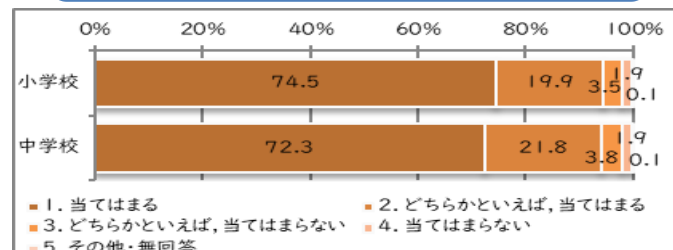
1 朝食を毎日食べている



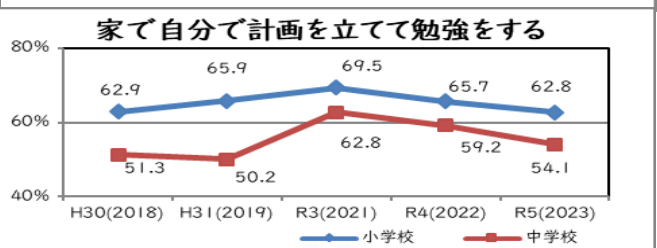
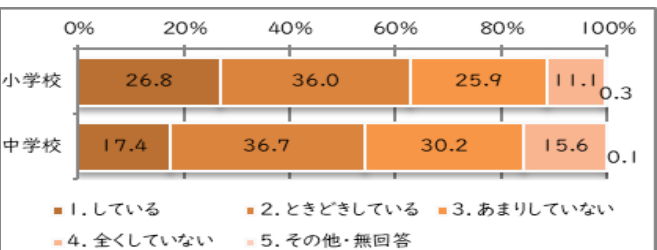
2 自分には、よいところがある



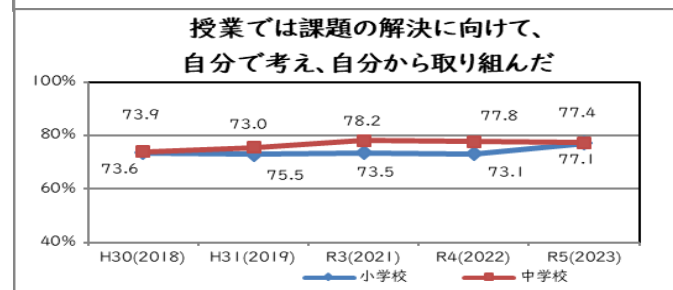
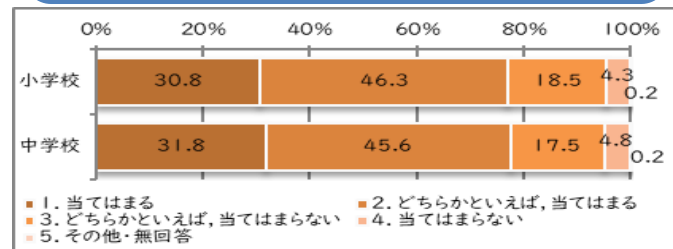
3 人の役に立つ人間になりたい



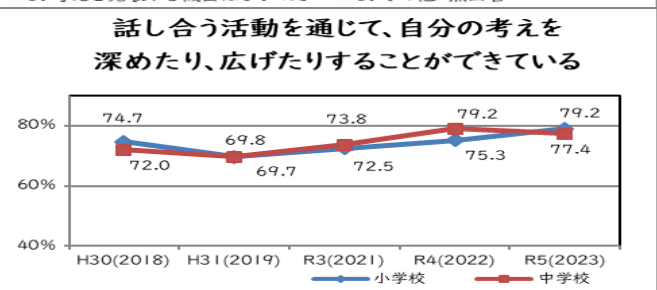
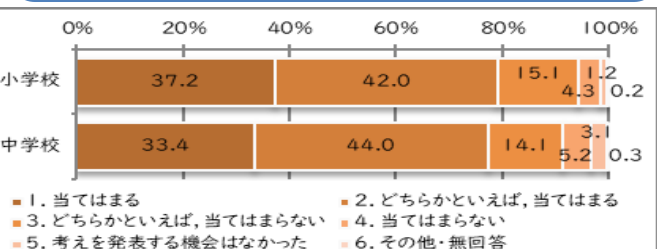
4 家で自分で計画を立てて勉強をする



5 前年度までに授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ



6 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



*令和2年度(2020年度)の調査は実施されませんでした。
*令和2年度(2020年度)の調査は実施されませんでした。



— 学力・学習状況調査の結果から—

■国語について■

小学校では、「書くこと」の領域における、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、「読むこと」における、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること等に課題がありました。

また、中学校では、「話すこと・聞くこと」の領域における、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することや、聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめること等に課題があります。一方で、事象や行為、心情を表す語句について理解することや、文脈に即して漢字を正しく書くこと等の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域については、全ての設問で全国平均と比較して正答率が高い結果となりました。

■算数・数学について■

小学校では、「データの活用」の領域における、グラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述すること等に課題がありました。一方で、乗法の計算をすることや、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ること等の「数と計量」の領域や、台形・正方形・正三角形の意味や性質について理解すること等の「図形」の領域については、全国平均と比較して正答率が高い結果となりました。

また、中学校では、全ての領域において、全国平均と比較して正答率が高い結果となりましたが、「関数」の領域における、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること等の平均正答率が低くなっていました。

■中学校英語について■

全ての領域において、全国平均と比較して正答率が高い結果となりましたが、「読むこと」の領域における日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることや、短い文章の概要を捉えること等の平均正答率が低くなっていました。

— 児童生徒質問紙調査の結果から—



■小中学校間での比較について■

「自分にはよいところがある」や「家で、自分で計画を立てて勉強をする」という質問については、小学校の方が肯定的な回答をした児童生徒の割合が多い結果となりました。

「授業では課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」という質問については、中学校の方が肯定的な回答をした児童生徒の割合が多い結果となりました。

■経年比較について■

「自分には、よいところがある」や「人の役に立つ人間になりたい」という質問については、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、昨年度と比べて増加しました。

一方で、「家で、自分で計画を立てて勉強をする」という質問については、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、昨年度と比べて減少しました。